

地域社会との緊密な連携を築こう

～ 持続可能な活動を地域と共に ～

豊田市立石畳小学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校は、豊田市北部に位置しており、周囲は自然豊かな山々に囲まれ、四季折々の景色を五感で感じながら元気で感性豊かな子どもたちが育っている。全校児童 90 名、全学年が単学級の小規模校だが、地域学校協働本部のボランティア（いしぼら）の支援の下、縦割り活動等を通じて各学年の交流を積極的に行い、学校全体が活気に溢れている。総合的な学習の時間では、地域の伝統や農業を取り入れ、地域の方の協力の下、野菜作りや稲作等を体験しながら学んでいる。特に稲作は、田植えから稲刈りまでを行い、収穫したもち米を使用した餅つきをし、収穫祭として地域の方に感謝を伝えている。また、天然温泉の無料の足湯を備えた石畳ふれあい広場に隣接し、学年、学級によっては毎月行われる朝市に出店するなど、地域の方と積極的に触れ合う機会にも多く恵まれている。

2 研究のねらい

児童数の急激な減少に伴い、P T A の会員数も減少していくなかで、将来にわたって持続可能にしていくためには P T A 活動を見直すことが必要であると考え。学校支援に支障が出ない範囲で保護者の負担も減らせる仕組みを構築する。

3 研究の仮説

活動内容や P T A 役員の組織の見直しを行い、P T A に対する負のイメージをなくす。地域学校協働本部と連携することで、ボランティアとしての保護者の関わりを増やし、負担なく学校支援を行えるようにする。

4 研究の方法

地域と共同で行っている活動で、学校の教育活動に必要なものを、地域学校協働本部の支援の下で行うようにし、P T A 役員を削減する。学校支援への心理的、物理的なハードルを下げることで、保護者がボランティアとして学校支援に関われるようにし、参加した保護者、児童の意見を聞き効果の検証をする。

5 研究の実践

(1) 地域学校協働本部と共に

ア 読み聞かせの実施

月に 2 回程度、地域、保護者のボランティアによる読み聞かせ（おはなしでてこい）を実施している。当初は P T A 役員で日程の調整、各クラスへの読み手の配置、各種連絡等を行っていたが、負担が大きく、読み聞かせ自体を存続することが困難



となり、廃止する検討をした。しかし、教育活動の一環であることや多くの児童が楽しみにしていることから、存続させることができる方法を検討した結果、P T Aから切り離し、地域学校協働本部の支援の下で行うことで存続できるようにした。また、小規模校であることの特徴を生かし、年に一度、全校児童を対象に群読を行っている。

イ 地域の伝統を学ぶ

本校の特色の一つである陶芸設備を使用して陶芸活動を行っている。地域の陶芸に携わる方のご指導の下、各学年がテーマを決めて一人一作品を制作する。完成した作品は校内に展示することで、保護者を初め多くの方に見てもらうことができ、学校の活動を知ってもらう機会となっている。



ウ 親子愛校作業

年に2回、P T A会員が学校周辺の草刈り等の整備活動を実施していた。会員数が減少している中で、従来の方法での実施が困難となっていた。地域の方の協力もあり、学校周辺の草刈り機を使用しての活動は廃止し、年に一度、授業参観の一環として親子で運動場の草取りをする活動に変更した。授業参観と同時に実施することで出席率も高く、多くの会員が参加している。



(2) P T A 役員の削減

上記に加え、広報誌の廃止、地域の充て職の廃止、交通当番の廃止など合理化を積極的に進め、最大で17名いた役員を5名まで削減して運営できるようにした。平日の夜や休日に実施していた役員の会合も学校行事の後やオンラインでの実施にして負担のないようにした。

6 研究の考察

会員数が減少していくなかでも、地域学校協働本部の支援の下で地域の方と共に学校支援ができていると考察する。地域の方と積極的に触れ合うことで、登下校や普段の生活でも元気なあいさつができる子が増えてきている。また、児童も『石畳をよくしたい!』と総合的な学習の時間等を通じて考えるきっかけとなっている。

7 成果と今後の課題

P T A 役員の負担減を実施したことにより、毎年くじ引きでの選考となっていたが、令和7年度は全ての役職が立候補での選出となった。子どもたちのために、学校のために、と保護者の考え方にも変化が見られた。また、地域の方が学校と子どもたちを大切にしてくれて、日々見守ってくれていることを改めて実感した。

ボランティアを地域の方に頼っていることが多いのも現状であるため、今後は保護者が積極的に参加できるよう、地域学校協働本部の活動を知ってもらう活動を進めていきたい。